

主体的に行動する消費者を育てる指導の工夫

一 課題学習「『自立した消費者』になるために」の実践を通して一

岩 田 靖

I はじめに

近年、新聞やテレビを通して「自己破産」「カード破産」ということをよく耳にするようになった。クレジットカードの発行枚数が1億6千万枚を超え、年間取扱高は推計で十数兆円にも達するという。その一方で、多重債務に苦しみ自己破産して行く者が年々倍増し、80年代前半の「サラ金地獄」を超えようとしているのである。それも、20代の若者の割合がけっこう高いものになっているというのが現状なのである。消費者相談をみても、かつての商品の「安全衛生」「品質機能」についてのクレームが、今日では「販売方法」「契約・解約」「消費者信用」へとその中心が移って来ている。しかも、消費者の不注意からこうした問題に引き込まれてしまったケースがけっこう多いという。その原因として、契約に対する認識の欠如や取引の多様化、複雑化に伴い、相互の権利・義務関係が分かりにくくなってきていることなどがあげられる。したがって、このような時代の変化に対応した消費者教育が要請されているのである。

これからの消費者教育では、企業の社会的責任の明確化や消費者保護行政の充実とともに、消費者自身の自立を促す指導が大切であると考えられる。しかし、現在の指導の多くは、教師中心の知識注入型の学習に陥っているように思われる。これでは、主体的に行動する自立した消費者を育てることはできないのではなからうか。そこで本稿では、「『自立した消費者』になるために（適切な課題を設けて行う学習）」の実践（平成4年12月～平成5年1月、3年生4クラス）を通して、主体的に行動する消費者を育てる指導の工夫を考えてみようとするものである。

II 指導の工夫

指導書の内容の取扱いによれば、「現代社会における取引の多様化や契約の重要性を取り上げ、消費者として主体的に判断し行動することが大切であることを考えさせるよう留意すること」となっている。ここで、ただ契約の重要性などについての知識を与えるだけでなく、消費者が自らの判断により選択ができる力を育てなければならないのである。消費者教育は、意思決定の仕方を学ぶ教育とも言われ、身近で具体的な事象を通して生きた一人の人間・消費者として生徒一人ひとりが主体的に追求し、意思決定していくことが大切だと考える。その際、多角的・多面的に事象を分析し、そこに潜む経済のメカニズムや対立する価値観などを直視していくことが重要なのではなからうか。そして、消費者に与えられた「権利」は、消費者自身が守り、育てていく必要があり、単に安くて質の良い商品を買う、利殖を図る、悪徳商法の被害から守るという「賢い消費者」に留まるのではなく、社会の中でお互いの立場を尊重しながら、社会や環境に与える影響を意識しながら限りある資源を有効に利

用して、個々の価値観に基づいた豊かな消費生活を実現する「自立した消費者」を目指さなければならないのである。そうした意味で、消費者自身にも社会的責任の自覚が必要だと考える。

一方、生徒たちの消費者を取り巻く問題への意識は低く、他人ごととしてしか受け止めていないのが実状である。3年生にもなると、買物に自由に使えるお金の額も大きくなる反面、その内容を親に知られたくないという気持ちも強くなるのである。また、カード利用経験者も増える中で、計画的な買物や物を大切に使うことができないのもこの時期の特徴といえよう。さらには、環境問題や資源・エネルギー問題をはじめとして、頭ではこうすべきであると考えたものの、実際には、それは誰かが行うもので自分とは関わりがないとか、自分だけがやっても何も変わらないからと行動に移せないのも現状である。

このように生活実感の乏しい生徒たちに、いかに主体的に行動する自立した消費者を育てるための指導を行っていくのが大きな課題である。そこで、その工夫として次の4点を挙げることにする。

ア、主体的な追求を大切に（消費者の立場からのアプローチ）

- ・身近なテーマ（興味・関心、課題性）・調査学習（問題解決型）

イ、多角的・多面的な情報収集とメカニズムの解明

- ・消費者の権利の確認（個性あふれる発表会） ・外国の事例などとの比較

ウ、消費者の社会的責任についての認識を高める

- ・自己の価値から社会的価値へ ・環境、資源・エネルギーへの配慮（リサイクル社会）

エ、意思決定の場の設定

- ・未来予測 ・社会への働きかけ（実践への意欲づけ）

なお、上記の諸点が相互に関係し合って有効に作用することは言うまでもないことである。

Ⅲ 単元「『自立した消費者』になるために」

（適切な課題を設けて行う学習）の構想

前項で述べてきた視点をもとに単元構成を行うわけであるが、問題解決型のテーマとして自己破産を取り上げることとした。それは、カード社会・キャッシュレス時代を迎えようとする今日の大きな課題であり、生徒たちが数年後に直接ターゲットとなる問題だからである。さらに、この問題は、消費者の立場からの追求を可能とし、そこから消費者自身の問題をはじめとして、企業や行政の問題・メカニズムまでかいまみることができるからである。また、消費者の姿勢を考える時、ただ自分が自己破産しなければいいとか悪徳商法に引っかからなければいいという自己の利益から、環境などへも配慮した社会的利益を考えさせることができるのである。そして、外国などの取り組みを含めて、未来予測を働かせながら主体的な意思決定を迫ることができると思う。それは、社会に主体的に関わり、働きかけようとする意欲を育てるものに違いない。

1. 単元 の 目 標

- (1) 消費者問題をめぐる課題追求を通して、「賢い消費者」から「自立した消費者」を目指し、自分の問題として調査・考え・行動することができる。
- (2) 自らの暮しやすさ（利便性）の追求だけでなく、地域社会や環境への配慮の重要性を考え、主体的・合理的な意思決定ができる。

主体的に行動する消費者を育てる指導の工夫

- (3) 高度に発達した現在の消費生活の中では、さまざまな問題が存在することを知り、それらに象徴される我々のライフスタイルが環境問題や資源・エネルギー問題とも密接に関わり合っていることに気づく。
- (4) 消費生活の安定・向上のためには、正しい知識の習得と消費者主権を実現するための消費者自身の主体的な判断や行動の必要性について理解できる。

2. 指導計画（全4時間）

- 自己破産を引き起こすものは……………1時間

自己破産が急増している現状を確認し、破産者の心情への共感とともに自己破産を招く原因について予想し、調査計画を立てる。

- ・調査とまとめ（放課後等を利用）

- 発表会……………1時間

各班が調査したことを聴き手に分かりやすく、工夫を凝らして発表し合う。

- 「賢い消費者」とは……………1時間

発表会終了後、自己破産が急増している原因を消費者・企業・行政のそれぞれの立場から整理し、「賢い消費者」になるにはどういうことが必要なのか話し合う。

- 「自立した消費者」とは……………1時間

生協活動が盛んになったり、そうした中で牛乳パックのリサイクル運動を展開しているのはどうしてか、考える。また、ドイツのリサイクルシステムや家庭での取り組みを紹介し、日本との違いがどこから生まれるのか、日本において自販機をなくす（価格を高くする）か、デポジット制を義務づける事ができるのか話し合う。「自立した消費者」になるために、気をつけ、実行して行かなければならないことをワークシートに書き、発表する。

3. 目標分析

時	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
1	・被害者に共感し消費者問題に主体的に取り組もうとする	・自己破産を引き起こす理由を多角的に予想することができる	・調査計画を立てそれにしたがって具体的調査・資料収集ができる	・自己破産急増の現状が理解できる
2	・調査結果を進んでみんなに伝え、発表された内容について質問や意見を持つとする	・発表を聴き、原因の相互関連性を明らかにできる	・聴き手に分かりやすく、個性のある発表ができる	・発表された原因や実状を理解できる
3	・自分の問題として考え、意見を述べようとする	・賢い消費者への提言ができる		・原因を消費者、企業、行政の立場で整理できる。

4	・自立する消費者へ近づくための自分自身の目標を持つことができる	・賢いと自立する消費者との違いを指摘することができる	・ドイツと日本の違いを日常生活の中から見つけることができる	・生協活動の意義やドイツと日本との違いを理解できる
---	---------------------------------	----------------------------	-------------------------------	---------------------------

4. 各時の学習

【第1時】 自己破産を引き起こすものは

(1) 目 標

- ・自己破産など消費者を巡るトラブルが急増していることを知り、被害者の立場にたつてその原因を予想し、確かめようとするすることができる。

(2) 展 開

発 問	資 料	学 習 活 動 ・ 予想される生徒の反応	指導上の意図と願い
<p>○自己破産はどうして起こるのだろうか。</p> <p>○破産者の心情を考えよう。</p> <p>○自己破産急増の原因を予想し、それを確かめる調査計画を立てよう。</p>	<p>○新聞記事</p> <p>○自己破産者数の変化</p> <p>○自己破産者の話</p>	<p>○自己破産の件数はどう変化し、今後どうなっていくか予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、急増している。 ・今後さらに増え続ける。 <p>○資料を読み、この人が破産してしまったわけを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無計画な購入 ・カードやクレジットの氾濫 ・売る側の販売姿勢の問題 ・悪徳商法の存在 <p>○破産者は今、どんな思いでいるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がばかだった ・これからどうなるのか。 ・どうしてこんなめに遭わなければならないのか。 <p>○自己破産が急増している理由を班で話し合い、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の金銭感覚の問題 	<p>・自己破産の現状と将来への見通しを持たせる事によって、問題の深刻さを実感させる。</p> <p>・自己破産に至るにはさまざまな原因があることに気づかせる。</p> <p>・破産者の心情に共感させ、自分のこととして考えさせる。</p> <p>・自分の考えをまずノートに書き、班で話し合う。</p> <p>・原因を行政、企業、</p>

主体的に行動する消費者を育てる指導の工夫

	○調査計画表	<ul style="list-style-type: none"> ・過剰な消費生活 ・クレジットなどの氾濫 ・悪徳商法が存在 ・売る側のモラルの問題 ・行政指導の不徹底 ○班別に調査計画を立てる	消費者の3つに大別して行く。 ・計画に無理がないかチェックする。
--	--------	--	---

(3) 評価の方法

- ・自己破産者の急増の理由を破産者の立場に立ちながら、3つの視点から予想できたか。
- ・班のテーマに沿って、調査計画が立てられたか。

【第2時】 発表会

(1) 目 標

- ・調査結果を聴き手に分かりやすく、個性豊かに発表することができる。
- ・発表を聴き、自己破産の原因やそれを取り巻く社会情勢を関連づけて理解することができる。

(2) 指導のポイント

① 調査の視点

A 消費者の実態・意識……………1、2班

- 消費者にとってのクレジット（カード）
 - ・利用状況、意識 ・長所と短所 ・今後の社会の予測
- 自己破産の急増に対して
 - ・意見や感想 ・各家庭（個人）での予防策
- 企業や行政に対して
 - ・悪徳商法が存在についての認識 ・通信販売や訪問販売の利用と心構え
 - ・企業（商店）販売競争について ・消費者を巡るトラブルの多発に対する行政指導のあり方について

B クレジット（カード）会社……………3班

- クレジット（カード）のしくみ
 - ・しくみ ・利用状況の推移 ・今後の予測 ・利点と欠点
- 自己破産の急増に対して
 - ・原因に対する認識 ・企業の責任と予防対策 ・消費者へのアドバイス

C 商店（会社）、商工会議所……………4、5班

- 自己破産の急増に対して
 - ・商店（会社）の責任と予防対策 ・消費者へのアドバイス
- クレジット（カード）の導入状況と利用状況
- 悪徳商法が存在について

・意見や感想 ・会社のモラルについて ・消費者の保護に対する会社の責務と努力

D 行政、警察……………6班（行政の立場から）

E 消費者センター、弁護士……………7班（消費者の立場から）

- 消費者問題の移り変わりと今後の予測、問題の原因とその背景
- 消費者の保護に対する施策と消費者へのアドバイス
- カード社会への対応

F 生活協同組合……………8班

- ねらいとしくみ
- ・主旨と主な活動 ・しくみと組合員数の推移 ・今後の展望

② 発表のポイント

- 発表形式は自由……説明、劇化、ニュース、レポート、紙芝居など聴き手に分かりやすくするための工夫を凝らさせる。事前にシナリオでチェックする。
- 各班発表内容をプリント1枚にまとめ、事前に配布する。
- 複数の班で調査したところは、代表で一つの班が発表し、必要があれば付け加えをさせる。発表に当たらなかった班は、模造紙等による展示発表とする。
- 発表の最後に、感想とともに「賢い消費者」への提言を述べさせる。

③ 聴き手のポイント

- 発表の要旨をワークシートにメモさせる。
- 発表の簡単な評価を付けさせ、発表者へ知らせる。

(3) 評価の方法

- ・声の大きさや内容のまとめ方など聴き手を意識した発表ができたか。
- ・自己破産が起こる要因や背景をワークシートに整理できたか。

【第3時】 「賢い消費者」とは

(1) 目 標

- ・「賢い消費者」への提言を、自分の問題として述べるができる。
- ・自己破産の原因、背景を消費者・企業・行政の三つの立場から整理することができる。

(2) 展 開

発 問	資 料	学 習 活 動 ・ 予想される生徒の反応	指導上の意図と願い
○自己破産が急増しているのは何故だろう。	○班で準備 ○発表会ワークシ	○発表の続きを聴く。（8班～生協） ○自己破産の急増の理由を	・消費者自らが活動し始めた例として取り扱うとともに、「自立した消費者」へと関連づけていく。

主体的に行動する消費者を育てる指導の工夫

<p>○「賢い消費者」とは</p>	<p>ート</p> <p>○ワークシート</p>	<p>整理し、発表する。</p> <p>〈消費者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金銭感覚や自己管理能力の低下 ・消費者トラブルに対する知識、認識の低さ 等 <p>〈企業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・儲け第一、モラルの低下 ・クレジットの罠 ・消費者への配慮や消費者に対する責任の欠落 等 <p>〈行政〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導の弱さ・対応の遅さ ・サービスの不十分さ 等 <p>○「賢い消費者」になるためには、どういうことが必要なのか、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己破産しないように自己管理できる消費者 ・悪徳商法などに引っかからない消費者 ・衝動買いやムダ使いをしない計画的な消費者 	<ul style="list-style-type: none"> ・三つの視点からポイントを整理する。 ・契約の重要性やクーリングオフなど必要事項を確認する。 ・消費者保護基本法の方針を大切にすること。 ・県消費者センターなど行政サービス窓口やその働きを広く知らせる。 ・ワークシートに自分の考えを書かせてから話し合わせる。 ・賢いという言葉を使わず考えさせ、具体化させて行く。 ・自己破産などしないことが賢い消費者なのか考えさせ、次時の「自立した消費者」へ
-------------------	--------------------------	---	--

(3) 評価の方法

- ・自己破産をもたらすのは、三つの要素が複雑にからみあっていることに気づいたか。
- ・「賢い消費者」を賢いという言葉を使わずに説明できたか。

【第4時】 「自立した消費者」とは

(1) 目 標

- ・「自立した消費者」へ近づくための自分なりの目標を設定することができる。
- ・ドイツと日本との消費者の考え方の違いが理解できる。

(2) 展 開

発 問	資 料	学 習 活 動 ・ 予想される生徒の反応	指導上の意図と願い
<p>○生協活動の意味するものは何か。</p> <p>○ドイツと日本との違いは何か。</p> <p>○自立した消費者になるためには。</p>	<p>○生協パンフレット、広報紙</p> <p>○VTR～破局回避のシナリオ</p> <p>○山陰中央新報 92. 11/18～ドイツの生活</p> <p>○北国新聞 92. 4/27～豊かさのつけ</p> <p>朝日新聞 92. 7/4, 16～ポイ捨て罰金</p> <p>○ワークシート</p>	<p>○生協活動が盛んになったり、その中で牛乳パック回収運動を行ったりしている理由を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者自身が行動し始めた。 ・消費者個人の利益だけでなく、社会全体の利益を考えるようになった。 <p>○VTRを試聴し、新聞記事が最後に言わんとした、「もっと大事なこと」とは何か、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民一人ひとりの意識 <p>○自販機の廃止（価格を高く）またはデポジット制の導入をどう考えるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民はそのくらいの負担をしてもかまわない。 ・生活の低下はイヤ。 <p>○「自立した消費者」になるために、気をつけ、実行して行かなければならないことを書き、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分だけの利益を考えず全体の利益につながる活動を少しでも実行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・8班の発表を活用し足りないところを補説する。 ・消費者個人の利益だけでなく、社会の利益も重要になってきている点と消費者自らが動き出すことが求められている点に気づかせる。 ・行政面の努力よりもそれを受け入れた国民の考え方や協力する姿勢に焦点をあてる。 ・賛成、反対のそれぞれの立場から意見を戦わせる。極端な意見については、国民全体の幸福や生活レベルの問題から考え直させる。 ・賢いと自立した消費者との違いを意識させる。 ・日常生活に目を向けさせるように配慮する

(3) 評価の方法

- ・身近な問題から取り組んで行こうとする前向きな姿勢が感じられたか。
- ・賢いと自立した消費者との違いを考えながら、積極的に討論に参加したか。

Ⅳ 実践と考察

前項の構想にしたがって授業実践を行ったわけであるが、Ⅱで述べた4つの視点について具体的に実践を紹介し、考察を加えてみたいと思う。

1. 主体的な追求を大切に（消費者の立場からのアプローチ）

学習を終えた生徒の感想を見てみると、

○今回の学習は、身の回りで起こっていることや私たち自身のことなど今までよりも身近に感じられた。初め、カードとか自己破産という言葉には直接関係なく関心もないと思っていたけど、学習を終えた今では、多少は近くなり、知識が増えました。そして、後半の消費者については、もっと身近でとても興味のある学習でした。

○今まで、何とも思っていなくて聞き流していたようなことだったけど、いろんなことを知るにつれて、身近に感じるようになった。自己破産は、もしかすると将来、自分もそうなるかもしれない。そう思うとやはり、どう防ごうとか自分の立場におきかえて、いろいろ考えることができた。

○調査学習から入ったので、かなり身近に感じながら取り組んで行けたと思う。また、内容が現代の社会の問題点についてだったので、社会の一般的な見解も合わせて知ることができたとし、本気で考えていかなければならないという自覚もある程度は持てたと思う。

○全体的にやって良かったと思う。将来大人になって、一人で暮らすようになった時にはどうしようとか本気で考えた時もあった。だから、こういった消費者の姿について調査活動という形で身につけられて少し安心した気分だ。

○私にはまだまだ関係のないことだと思っていた。でも、とても身近にあることで、だれでもみんな消費者だということがわかりました。

○初めは調査はめんどうだろうと思いましたが、やってみると楽しかったです。「カード破産」についてとか「消費生活」について普段は全く考えないけれど、調べてみると、私達にとっても大切な事なのだと感じました。今回調べたことが“生活の知識”として、のちのち役に立つと思います。（大人になってからカードなど）

以上のように、生徒は、自己破産に近い将来の自分の問題として深刻に捉えているのである。この問題が、現在マスコミを通じて大きく取り上げられるようになってきたことも生徒の興味・関心を高めた一因ではあろう。さらに、調査を進める中で、現代の消費に関わるメカニズムが少しずつ明らかになるにしたがって消費者の一人としての自分との関わりを深めて行ったようである。この問題に対する興味の引き方も、新鮮な課題（タイムリーな課題）としてはじめから意欲を示した生徒と調査を通して必用感を強めた生徒とが見られた。いずれにせよ、この課題が生徒の興味を引き、問題解決型の学習にマッチしていたと言えるのではなかろうか。またそれは、調査学習ともうまく結び付きより高い関心・必要感を生み出したのである。

また、この課題は消費者の立場から事象を見つめていくうえからも有効に作用したように思われる。ある生徒は、「私は初め『自己破産について調べます』と言われた時、『そんな事調べる価値

があるのかな?』と思ってあまり乗り気じゃなかった。調査時にも消極的な態度が出ていたかも…と思うとちょっと反省だけれど、最後(今日)の自立した消費者とは?を考えて、やっとでこの学習のつながり、目的が見えて、あーそうか、と納得した。」と述べている。これは、自己破産という課題が真の消費者としてのあり方へと深化、発展した表れではなからうか。


このような調査学習を支えるものとして、一人ひとりに自分なりの予想を持たせ、それを班で吟味し、全体場で検討する場を設けている。そして、調査計画の立案を行うのである。調査学習を行う場合、この調査計画をどのように立てるかが重要なポイントなのである。生徒たちは1年生の時から視点を変えながらこうした経験を重ねて来ており、その力をふるに発揮して合格を勝ち取るわけである(写真1、資料1・2)。

しかし、今回の調査は班単位で調査対象を分担したために自分たちの希望したものとは違ったり、班の中で一生懸命に取り組む者とそうでない者が出てしまうなど課題もいくつか残した。また、何度かこうした調査学習を経験しても、その都度課題は違い、調査対象によっては事前の知識不足のために予想がうまくいかなかったり、調査計画が思うように立案できないことも見られた。

資料1.

自己破産の増減の何故か(自己破産が引き起こるのは?)

— 調査計画 — (2)組(4)班

消費者・ 行政 調査対象〈商店会社 商工会〉

予想・確認したい点	質問事項(観察事項)	場所	分担
クレジットカードのしくみが悪い。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほとんどしくみになっていないのか ② 何歳からクレジットカードを持つことか ③ 7歳から ④ どのくらい金額まで出してもらえるか ⑤ 銀行・お金がなくなったら、カード使用はできなくなるのか ⑥ (改善すべき点)があるのか ⑦ 自己破産した場合、利益がなくなるからどういう対応するのか 	商店会 商工会	川神 梶岡 箕岡 メモ
悪徳商法が増えた	<ul style="list-style-type: none"> ① 今までに悪徳商法による被害はあったか ② あつたら、どんな事件があったか ③ それによる被害はあるのか ④ 悪徳商法による被害や苦情を知ったら、すぐに知らせるしているか ⑤ 企業を監視しているか 	ク	ク
クレジットカードを使用する人は若い人が多い	<ul style="list-style-type: none"> ① クレジットカードを使用する人は、どのくらい ② の年代の人が多いか ③ お店で使えるカードの種類は有種類あるか ④ 現金とカード使用の比率はどちらが多いか ⑤ 同じ商店員として悪徳商売人と思うか 	学園通り店	森脇 永井 橋田 賀門
店がカードの借払いを認め、それが増えた自分たちの利益のため消費者のことが増えた	<ul style="list-style-type: none"> ① なぜカードや分割などの借払いを認めるのか ② その長所は何か ③ 消費者が破産(倒産)により被害はあるか ④ 本人の借払い金かたまたま増えたならば、それをストップさせたりするのか 	ク	ク
予想・確認したい点	改革案資料と内容	場所	分担
クレジットカードとキャッシュカードの普及が自己破産に関係があるのか	<ul style="list-style-type: none"> ① 事前にカードのしくみを調べる(新聞) ② (クレジットカード、キャッシュカード) ③ 全体の流れ→そこから新たな疑問を見つける ④ クレジットカードが普及(20代年代)自己破産が増加(20代年代)調べる ⑤ 同じことがキャッシュカードにもあるのか 	学校	みんな

女メンバーと役割分担

梶岡	永井	(川神)	製春	(梶岡)	()
箕岡	箕岡	箕岡	箕岡	箕岡	
メモ	メモ	メモ	メモ	メモ	録音

写真1. 調査計画の作成



資料2.

アンケート 1992. 12. 21

下の問いで該当するものの記号に○を、または()に記入してください。

[1] あなたはクレジットカードを持っていますか。
 a. 持っている b. 持っていない

[2] [1]で「持っている」とお答えになった方のみお答えください。
 ① あなたはクレジットカードを何枚持っていますか。
 ()枚
 ② あなたはクレジットカードを多用していますか。
 a. 多用している b. していない
 ③ 近頃クレジットカードで買物をしましたか。
 a. した b. していない
 ④ ②で「した」とお答えになった方のみお答えください。
 それはどのくらいの頻度でしたか。
 a. 1万円以下 b. 5万円以下 c. 10万円以下 d. それ以上

[3] [1]で「持っていない」とお答えになった方のみお答えください。
 この先クレジットカードをつくる予定はありますか。
 a. ある b. ない
 ② 上の質問で「ある」とお答えになった方のみお答えください。
 理由は何かですか。

[4] 取計をつけていますか。
 a. つけている b. つけていない

[5] あなたはクレジットカードを使える店をどのくらい知っていますか。
 ()軒

[6] 自己破産についてどう思いますか。

[7] あなたは借金がありますか。
 a. ある b. ない

[8] あなたの取計は正しいですか。
 a. 正しい b. 正しいではない

以上

※ このアンケートの番号の内容については、いっさい部外に公表しませんので、念のために申し添えます。

主体的に行動する消費者を育てる指導の工夫

2. 多角的・多面的な情報収集とメカニズムの解明

生徒たちは、自分たちの立てた調査計画にしたがって情報収集に努めたわけである。グループの中には、資料2のように自分たちで考えたアンケート用紙を利用する班も見られた。こうした調査の集大成が発表会である。発表会では自分たちの調べたことをいかに相手に分かりやすく伝えるのかを課題として取り組ませた（8班中2班は展示発表）。そのために、①内容の道筋は通っていたか ②声の大きさ（字のていねいさ） ③発表に工夫（まとめ方に工夫） ④深く調査しているかの4つの視点で発表を相互評価させることにした。そして、各班「発表構想メモ」（資料3）の提出・合格とB4の大きさ1枚のまとめのプリント（資料5）作成を指示し、今までの発表の工夫を思い出させたり新しい取り組みなどを紹介して、後は各班の工夫に任せる事にした。劇化する班では、自分たちでシナリオ（資料4）を作り、「発表会の前日みんなで図書室などでがんばった。そして、当日の朝はいつもより来るのが早かった。こんなことが、いい発表へとつながったのだと思う。今までいろんな調査・発表をしたけれど、みんなが一生懸命で、私もがんばらないと励まされた。」というように各班とも熱の入った取り組みを見せていた。発表会に対する生徒の感想は次のようなものであった。

資料3.

発表 構想メモ / 組7 班環 目〇 勝〇

発表スタイル、要旨。(登場人物-観衆)各2

1. プリントの裏面をセリガシ説明 (下の分まで)

2. 靴いばい-1件協いのスポンサーがいてより自由させて

1日目 2日目 3日目 4日目 5日目 6日目

分	発表の内容	担当	資料
①	靴いばい-言葉	目次	プリント
②	靴いばい説明-靴いばい内容から		
③	(生協の誕生)	全津	
④	(生協の成長-商品)	音節	
⑤	(いばい生協)	和田	前100
⑥	(船給の活動)	和田	
⑦	靴いばい-1生協のスポンサー		
⑧	生協の特色-スポンサーとセリガシ		
⑨	班-誰かよ、どう利用されるか	手日	
⑩	2-誰かよ	音節	
⑪	3-誰かよ、構成-足音をきかせる	全津	
⑫	4-生協のスポンサーの報告のつくり	和田	
⑬	5-生協の活動-専事の報告	目次	
⑭	6-靴いばい	音節	
⑮	7-靴いばい	目次	

＜資料作成担当＞

- ・プリント-目次
- ・プリント説明-1件協いの全津(生協成長-商品)音節、(いばい生協)和田、(船給の活動)和田
- ・靴いばい-1件協-目次
- ・靴いばい作成-11枚

資料4. 2組6班のシナリオ

とある簡易裁判所がある。

西原 年あひりの女性が破産してカード会社「松江信販」を相手どって裁判をおこなった。

――この物語はこの裁判の経緯を忠実に再現したのである。

裁判長
これは、原告の申し立てにより、被告側の自己破産をめぐって争われていたが、またそれは争点であったかどうかについての裁判を争う。それでは原告が自己破産におおった状況について各個人説明(原告)

原告弁護士
はい。原告はある会社ではらくOLでした。ある日、松江信販に付ける友人Mに誘われ、また世間体や税金なども少なからずあって、クレジットカードを争うことになりました。原告はカード会社に申し込み、次々と物を購入していき、その一部を申し立て、3年前の7月、洋服も、着屋も、月刊誌も、次の年11月、洋服も、2月、炊飯機、3月、カラオケセット、4月にはパソコンも、全てをカードで買いました。はじめのうちにはカードの限度額から何も考えなかったものの、1年ほどたつと、利用限度額がどんどんにたまっていくことに恐怖を感じました。しかもその時と比べると、元々支払うべきはありませんでした。そこで破産の申し立てをしました。以上です。

裁判長 原告、そのことにうやむやいありませぬか

原告 ありませぬ

裁判長 では原告のいばいおんを聞きます。

原告 はい。私のカードの借入限度額はこえていたのに、店では物が買えました。私の利用限度額を超えて、止めてくれれば私の借金は増えなかったと思います。ここに問題があると思えます。

裁判長 被告、それについていばいおんを述べなさい。

資料5. 発表会プリント

消費者実態 (4組 西○ 園○ 余○ 宮○ 増○)

④ カードを使うようになったら、苦痛な買い物が増えたか? はいと答えた人 13人中 2人

⑤ 計画を立てて買い物していますか。

⑥ 家計簿をつけていますか。

アンケート結果

① 商品量が増えたと思いますか。

② 商品の高級化を感じますか。

⑦ 自己破産を身近に感じますか。

⑧ 自己破産について政府、または企業に望むことは何ですか。

まとめ

このアンケートは、20代、30代、40代、50代、60代の各年代の人4人ずつに協力していただきました。予想と違って、カードを使っている人も多く、みんな自分のお金についてはきちんと意識して使っておられるようでした。結局、自己破産というのは個人個人の問題であり、消費者一人一人が正しい知識をもち、計画的にお金を使っていくことが最も大切だと思います。

カードの使用

枚数は予想より少なくなりました。また、使った額も少ないです。使った人は、物が増えた。

自己破産について

なあまり意識はない。28才の方

1度破産をしたら2度とく慮さなければ管理をきちんとしてほしい。30代の方

物価をもっと安くしてほしい。30代の方

なし。42才の方 1個人の責任です。

カードを発行する際の調査項目をふやし、慎重に発行してもらいたい。42才の方、60才の方

教育をきちんと20才の方

カードの正しい使い方をおしえてほしい。43才の方

安易な買い物をしない。頼りな家計簿を企業にのせて。53才の方

アンケート結果表

年代	はい	いいえ
20歳代	0人	4人
30歳代	0人	4人
40歳代	1人	4人
50歳代	1人	3人
60歳代	1人	3人

理由は、新聞やテレビでよく耳にするからでした。

物価の意識

加齢の年代も商品が増えている人が多い。

家計簿

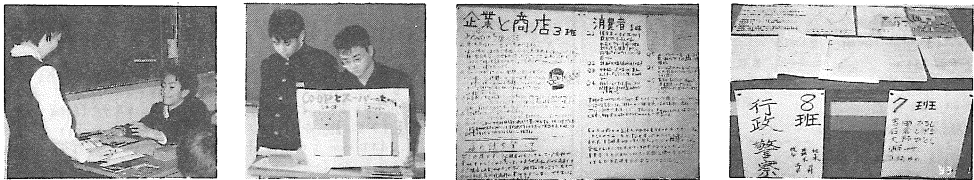
ほとんどの人は計画的にお金を使っている。家計簿をつけている人は半分くらい。

カード使用表

年代	はい	いいえ
20歳代	0	4
30歳代	0	4
40歳代	1	3
50歳代	1	3
60歳代	1	3

※○は人数を表す。

写真2. 発表会 (劇・カード社会、紙芝居・生協、展示発表、教室展示)



○劇もすごく工夫してあってよかったけれど、“歌”という今までにない方法で発表した班もあり感心しました。他の班もプリントなどをとてもきれいに仕上げている、とても努力のあとが見られたと思います。どの班も調査をととても深くしていて、むずかしい言葉とかたくさん出てきたけれど、そこはまた工夫して、私にもわかりやすく説明してくれて良かった。今回はレベルがととても高かったと思います。

○生協の替え歌、裁判の劇化をした班がけっこう印象に残っており、それぞれに一ひねり二ひねりも工夫していた。中には、破産法、裁判の方法、クーリング・オフといった難しいことを分かりやすく、絵・図・グラフなどを利用してよかった。あと、調査結果と今後の課題とを強く結び付けたところもあった。全体的にどこの班も豆に、詳しく調査していた。

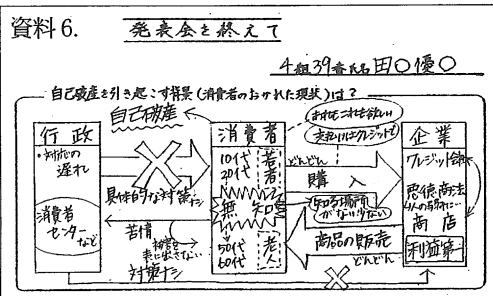
○久しぶりに自分たちでいろいろする発表形式のものでみんな意外に工夫していた劇など多くておもしろかった。これも、関心が高い証拠かもしれない。

○劇みたいにしてやっている班がやっぱりあってすごく楽しく見られたし、OHPを使ってそんな感じでしたり、インタビュー形式でしてみたりしてて、話まくっているのを聞くよりは私の頭の中に入ったんで良かったと思う。OHPの違った使い道とか、いろいろ考えればずいぶんと見やすく、楽しいと思った。

○各班それぞれ味が出ていたと思いました。劇もあれば紙芝居もあり、どれも分かりやすかったです。特に劇について言えば、各班発表までに何回ものリハーサルを繰り返し行っていて遊んでいる人なんて見なかったように思えます。どこの班にも拍手を送りたいですね。

自己破産という話題から、ニュース・ワイドショー形式の中でインタビューや劇化などを取り入れられたり、裁判、紙芝居、OHP、プリント、歌などさまざまなものを組み合わせて発表を行っていた。生徒の工夫にこちらが驚かされるばかりであった。中には、「笑う せゑーるすまん」をもじってカード破産の劇を演じる班もあり、情報化社会に生きる生徒たちの一面をかいまみたような気がした。

メカニズムの解明については、右の資料6を見ても分かるように、予想の段階では消費者の態度や金銭感覚の問題しか見えなかった生徒が消費者・企業・行政の関わりの中で自己破産が生み出されて来ることに気づいて行ったのである。それは、対象を変えた調査と発表会の充実と言うことができるのではなかろうか。



○「自己破産を引き起こす背景」を書いていて気づいたことなのだけれども、一番悪いのは〈消費者〉か〈商店〉か〈行政〉かと思っていたけれど、自己破産というのは、それぞれの欠点の集まりが引き起こすということに気が付きました。消費者の無知、商店の利益追求、行政の無関心。自己破産をなくすのは、こちらを直していかなければ絶対なくなることは不可能だと思いました。

○1つの課題が出されて、そこからたくさんのことを学ぶのと同じように、自己破産1つ取り上げてもさまざまな問題が複雑にからんでいる。それらを1つ1つ解決していくことで、賢い消費者になれるし、また、新たな問題も出て来るだろう。

○結局、自己破産の原因としては、大きく3つのことがあげられると思いました。行政(法)と企業と消費者、それぞれが不足しているものがある、外国などと比べても日本の対策が遅れていることが分かりました。ほとんど知識のなかった自己破産(カードなど)だったけど、いろいろなことが分かりました。自分たちで調査できて良かったと思います。

以上のような感想を授業後に残している。外国の消費者をめぐる問題への対応なども参考にしており、身近な我々の問題を見つめ直す手がかりにしている。外国の事例の活用については次項でもう少し触れてみたいと思う。発表会は今までに見てきたように、たいへん充実し楽しいものになったわけだが、その反面、発表の本質（課題）が時にそのパフォーマンスのために曖昧になってしまう嫌いがあり、発表する側だけでなく聞く側への指導・配慮を必要とするように感じた。今回は、要点をメモするためのワークシートと評価表を与えたのであるが。

3. 消費者の社会的責任についての認識を高める

第3時が終了する時、生徒が考えた「賢い消費者」とは、

- ・自己破産しない
- ・自分の意見が言える（考えを持っている）
- ・自制心を持っている
- ・金銭感覚がしっかりしている
- ・計画性がある
- ・いろんな情報を進んで得ようとする
- ・カードにすぐ飛びつかない
- ・商品を見極める目を持つ
- ・カードを上手に利用する
- ・自分をよく知る
- ・不必要な物は買わない
- ・家計簿をつける
- ・冷静に判断を下す

といった消費者である。これらを見ると、自己破産・悪徳商法の被害に合わない消費者であり、自分にとっての利益を優先する考え方と言えよう。これからの消費者教育を考えた時、この段階で消費者教育を終えてはならないのではなかろうか。もう一步進めて消費者の社会的責任、つまりは、社会的価値を大切にする消費者づくりを考える必要があると思う。それは、環境問題や資源・エネルギー問題と直面する現代、特に日本においてはなおさらの事のように思われる。自己の価値から社会的価値へと高めるために、生協運動を消費者運動・環境運動への橋渡しとして、先進国ドイツを事例に取り上げることにした。慣れ親しんだ生活を新しい目で見つめ直すためには、こうした事例を参考にすることが有効だと考えたからである。この授業後の生徒の感想は次のようなものであった。

○ドイツであのようなことが行われていることなんて、ぜんぜん知らなかった。日本も先進国であるわけなので、このようなことは率先して行っていくべきではないかと思う。この点では、日本はとても遅れていたのだと思い知らされた。これから生活する中で、自分のためになることだけを考えるのではなく、社会全体のことを考えていかなければいけないと思う。日本がドイツのようにするにはまだまだ時間がかかると思うけれど、少しでも近づけるように、私たちも身近なところから協力していきたいと思う。

○私たちがいかに環境に対して無関心であるか、ということが分かりました。というより、当たり前でないことを当たり前のようにやっている、ということドイツの生活を見て、思い知らされました。日本はそういう面でものすごく遅れていると思います。今のような自分だけのことを考えているような考え方は今の社会において、いや、人間として非常識なことだと思います。今すぐできることは早くやらないと、手遅れになるのではという気がしました。

に代表されるように、みんなが消費者の一人として大きなショックを受けたようである。ドイツの生活を手がかりに我々の生活や考え方を見直すことができたのである。ただ、ドイツの取り組みだけを誉め、わが国のそれを否定してばかりいても問題ではあるが。生徒の中には、わが国らしさ（日本の歩む道）を考えようとした者も多数いたことを付け加えておきたい。

4. 意思決定の場の設定

生徒たちに社会的価値の重視を教師からの押し付けではなく、自ら大切にしていかなければならないと感じさせるために大きな役割を果たしたのが、この意思決定場面の設定であったように思われる。ドイツの事例を知り、日本の場合いたる所に設置されているジュースなどの自動販売機の廃止やカンなどに対するデポジット制度の導入について自分なりの価値判断を迫ったのである。この問題に対しての生徒の回答は、賛成109名、反対34名、どちらともいえない16名であった。賛成・反対それぞれの意見を見てみると、

〈賛成〉

- ・省資源、省エネルギーを考えると（日本の将来を考えると） ・消費者の意識の高揚
- ・我慢も必要（ドイツでは困っていない） ・こうしなければ大量消費は止められない
- ・確実にゴミが減る ・お店で買える ・自分はあまり利用しない ・未来予測から
- ・社会への働きかけ（実践への意欲づけ）

〈反対〉

- ・考え方が変わらない以上行っても無駄 ・我々の生活に定着している ・他の方策がある
- ・企業が経済的に苦しくなり、我々の生活にまで影響する ・自販機が改良される

などであった。賛成派の中にもかなり自販機完全廃止には抵抗を持っているようで、頭では理解していても、心の中で納得できないといったところである。このあたりが、中学生いや人間らしいところではなかろうか。この論争のおかげで、日本や世界の将来について本気になって考え、消費者としてどうして行くべきなのか、また、できるのかを問い直したようである。

○我が家は前はコープをやっていたけれど、今は家が変わって止めてしまった。結局授業の最後にまとめた通り、「消費者の意識で住みよい環境を作るんだ。消費者が主権者なんだ」という意識をコープに限らず活動に表して行かないと行けないと思う。活動の内容は皆分かっているはずだから。

○「消費者」とは、消費する者。それをどううまく使うかはもちろんだが、もっと大きな目で見て、それをどう買入れるか、どう処分するかも考え意識していかなければならないと思う。そして、よりよい“サイクル”を作るべきだと思う。今は、そのサイクルのために運動すべきだ。そして、将来よいサイクルができた時、「昔の消費者たちが変えて行ってくれたおかげだ」と思われるような消費者に、よい未来を創るための消費者になりたい。

学習が終わって「自分たちが目指すべき消費者像」という問いに対しての生徒の意見である。未来をしっかりと見すえた中で、今、自分たちは何をすべきなのかを考えている姿ははっきりと見られるのである。深い思考が、行動への意欲に結び付いていると言えるのではなからうか。生徒の中には、社会に対する働きかけの第一歩として、まず自分を高めようと考えた者も少なくなかった。こうした考えに至ったのも意思決定場面の設定はもちろんのこと、それまでの積み重ねに負うところが大きいように思われる。そういう意味でも、消費者教育の視点をどのように普段の授業の中に組み込んで行くかが課題である。

V おわりに

主体的に行動する自立した消費者を育てる指導の工夫について、4つの視点から自己破産を取り上げ、調査学習を組み込んだ実践を述べてみた。前項で触れたようにいくつかの課題も残されたが、最大の課題はこうした視点に立った実践を公民的分野のみならず、社会科教育全体の中に適切に位置づけて授業を積み重ねていくことではなからうか。この学習を通して、消費者としての視点を生徒一人ひとりが持てたこととカードなどの使用をめぐって家族との話し合いが行われたことも成果の一つとして挙げることができよう。学習を終えるにあたって次のような意見が寄せられた。

○「個人の生活を担う一消費者」「社会の消費生活を担う一消費者」という2つの視点を持つことが大切だと思う。ただ、これを全く別の見方でなく、最終的には「個人（自分）のため＝社会のため」という方向で見られるようにならなければならない。目先の利己的な個人主義にとらわれず、長い目でみれば、リサイクルも消費者運動等の働きかけも、結局は我々、あるいは子孫が見返りを受けていくものなんだ、と気づかされるはずだ。その点、奉仕の精神による働きかけは、（我々の義務・責任とも言えるかもしれないが）「有意義な利己的精神」かもしれない。このような眼、考えをもてば、個・行・企の3本柱がうまく共鳴し合い、循環による解決へとつながるのではないだろうか。

○聞き取りによって得た知識が全体を通して大きく響いた。消費者や企業など、それぞれの考えや実態を知ることができたので、僕たちはこれからどうあるべきか、また、どういう考えがいいのか、考えることができた。最終的に僕が思ったのは、自分たちが消費者であり、世論であり、実行者だということです。

〈主な参考文献〉

- ・山根英次著『「経済の仕組み」がわかる社会科授業』 明治図書 1990
- ・朝倉隆太郎編『現代社会科教育実践講座12 地域・社会生活および経済活動の学習』ニチブン 1991
- ・佐藤照雄他監修『中学校社会科教育実践講座13 現代の経済生活』 教育出版センター 1990
- ・茂木 喬編『新しい公民的分野の指導例集』 明治図書 1992